

3月15日に東京・日比谷野外音楽堂に市民など5500人が集まり「フクシマを忘れない！ さようなら原発3.15脱原発集会」が開かれました。日退教は首都圏単会を中心に約50名（北退教の仲間も）が参加しました。

東日本大震災・福島原発事故から3年。事故の詳細は解明されず、いまだに16万人以上の方々が困難な避難生活を強いられています。その一方で、安倍政権は、原発再稼働、原発輸出を企て、原発推進の旗を振り続けています。脱原発世論を無視する安倍政権を許さず、ふたたび脱原発の声を、行動を広げていこうと、

大江健三郎さん、澤地久枝さんから呼びかけ人アピール、そして、日本人初の宇宙飛行士秋山豊寛さんから「TBS退社後、福島原発から32キロの所でシイタケ栽培をやっていたが、全てが汚染された。事故の責任を誰が取ったのか。再稼働を絶対に許してはならない。この声をつなげて行動に押し上げていこう」と賛同アピールがなされました。

原発再稼働問題では「原子力発電に反対する福井県民会議」幹事の松下照幸さんが「原発がある地域の住民の本音は脱原発だが、地域経済のこともあり、揺れている。全国の人と繋がって、再稼働を止めていきたい」と呼び掛けました。

3月8日に郡山市などで開いた「原発のない福島を！県民大集会」後、福島から関東・東海の各県を結んだ「フクシマ連帯キャラバン行動」が行われ、代表者が報告を行いました。

最後に呼びかけ人の鎌田慧さんが「この間、5人の首相が原発を止めようと言っている。これは私たちの運動の成果だ。3月下旬に川内原発再稼働の動きがある。その時は国会前で大行動をしよう」と呼び掛けて集会を終えました。

その後、東京電力本店前を通り、銀座・東京駅までのデモ行進を行い、「原発をなくせ！」「再稼働を許すな！」などと力強くアピールをしました。